

5兆円もかかる北陸新幹線の延伸計画 市長は「事業の実現に期待をしている」と答弁

北陸新幹線の京都南部延伸で、宇治市を通過し、市域のすぐ西の巨椋池干拓地に車両基地を建設する3つの案を与党プロジェクトチームが決議したもとで、党議員が9月定例会の一般質問で、市長や市の受け止めを質問しました。

環境への影響「判断することは困難」

党議員は、車両基地ができることで巨椋池の治水機能が低下し水害のリスクが高まることや、ヒ素を含んだ建設残土が車両基地の盛土に使われる可能性があること、宇治市域をトンネルで通過することで地盤沈下や地下水の枯渇の可能性があるとの党議員の質問に、市は「現時点で示されているのは想定イメージであり、判断することは困難」と繰り返しました。

建設費負担は「今後の動向に注視」

北陸新幹線の延伸は、3つの案すべてが5兆円規模の計画で、国が3分の1、地方自治体が3分の1、事業者が3分の1を負担します。

このうち地方自治体負担で、市の建設費用の負担が生じるのではとの質問には、市は「駅の設置のない宇治市には費用負担を求められることはないとしつつも、「ルート案が提示されたところであり、今後の動向に注視する」と答弁しました。

市長は「関西圏の発展に非常に大きく、本事業の早期開通・実現に期待」

党議員は、市長の計画に対する意見を質問。市長は「ルート案が示されたが、今後どのようなプロセスを経てルートが決まるのか、環境への影響とその対策など詳細が明らかにされ

ていない」と述べ「宇治市としては市民の安全、安心、環境への影響などについて、慎重な調査と地元への丁寧な説明を求める」と答弁しました。

一方で市長は、自民党議員の質問に対して、北陸新幹線の延伸そのものについて「南海トラフ地震は広範囲にわたる相当な被害が予想されている。東京と大阪をむすぶ代替性の確保は国土政策上の大きな課題」と南海トラフ地震の被害をあげて、東海道新幹線と別の高速鉄道が必要との見解を示しました。

また、北陸新幹線が福井県の敦賀まで延伸したことによって、福井県の観光が賑わっていると紹介し、「敦賀・大阪間の早期開通は関西圏の発展にとって非常に大きなプロジェクトである」として、「本事業の実現に期待をしている」と答弁しました。

北陸新幹線よりも地域交通の充実

日本共産党は北陸新幹線の延伸計画は、地下水や河川などの影響、有害物質を含む発生土など、自然環境と住民の住環境への影響が計り知れないこと。また、5兆円もの建築費への税金投入が、市民の暮らしへの大きな影響を与えると考えています。

5兆円もかかる北陸新幹線の延伸よりも、デマンドタクシーの導入や在来線の強化など、地域の公共交通の維持充実などに税金を使うべきと、北陸新幹線の延伸計画のそのものの中止を求めています。

党議員は「あまりにも情報がないのに、与党プロジェクトチームの案では来年度には着工すると言っている。この計画には賛同できないと意見を言うべき」と市長を追及しました。

